

令和4年度予算主要事業の概要
(事業別説明資料)

教育委員会事務局



目 次

ふるさと納税を活用した学校給食の充実	3
飛騨市学園構想の推進	4
ICT を効果的に活用した授業づくり	5
学習環境・体験活動の充実と指導力の向上	6
地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備	7
スマホお助け隊によるシニアスマホ教室の開催	8
飛騨市民カレッジによる生涯学習の推進	9
集落有集会施設の整備等の支援	10
飛騨市美術館の大規模修繕	11
飛騨市美術館と連動したアウトリーチ活動の推進	12
神岡城の展示装飾等のリニューアル	13
江馬氏城館跡の保存活用の推進	14
姉小路氏関連山城群の調査・活用の推進	15
市指定文化財「旧中村家」の修復	16
市天然記念物「福全寺跡大イチョウ」の保護柵設置	17
ジュニアスポーツ応援プロジェクトの推進	18
全国中学生クロスカントリー大会in流葉の開催	19
子ども達のスケートボードエリアの整備	20
オリンピック・トップアスリートとの交流	21
スポーツに特化した学童保育の推進	22
クアオルト健康ウォーキングの推進	23
飛騨駅伝競走大会の開催支援	24

継続 ふるさと納税を活用した学校給食の充実

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
10,000	ふるさと納税 (特定目的) 10,000	賄材料費 10,000
(前年度予算 10,000)		

2 事業背景・目的

市では、全国の皆様からいただいたふるさと納税を活用し、地元産品を使ったメニューやデザートを学校給食で提供する「ありがとう給食の日」を設けて、食を通じて地域への感謝と誇りを養い、学校生活の楽しみを向上させる取組を進めています。

令和3年度は、食のまちづくり推進課と連携し、宮川小学校において地元の飛騨牛生産者を招いて「ふるさと学校給食」による食育授業を実施し、飛騨牛を使用したメニューを給食に提供しました。また、地元で生産される乳製品や和洋菓子等を、月2回程度「ありがとう給食の日」として提供し、給食だよりや校内放送でPRしました。

引き続き、子どもたちの目線から日々の学校生活の中で喜んでもらえる、小さな夢を叶えてあげられるよう、ふるさと納税を活用した学校給食の充実を図ります。

3 事業概要

① 「ありがとう給食の日」の実施

食のまちづくり推進課と連携し、地元の野菜や特産品を使用したメニューや季節の果物等をデザートとして提供する「ありがとう給食の日」を月2回程度実施するとともに、市内事業者と協力し給食用の新たなデザートの開発も検討します。

② 「ふるさと学校給食」の実施

食のまちづくり推進課と連携し、地域の生産者を招いて食材づくりの仕組みやこだわりを学ぶ「ふるさと学校給食」を実施し、地域への感謝と誇りを養います。

実施校 山之村小中学校 (予定)



担当課：教育委員会事務局教育総務課 (☎0577-73-7493) 予算書：P.140

拡充 飛騨市学園構想の推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
5,591	ふるさと納税	5,509	委託料	3,011
	参加者負担金	82	補助金	1,000
（前年度予算 4,000）			その他	1,580

2 事業背景・目的

飛騨市学園構想は、市内の保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校を「ひとつの学園」と見立て、社会総がかりで育む「未来の創り手像」を明らかにし、一貫した課題解決型カリキュラムの編成・実施と校種間交流の充実によってその実現を目指しています。更に、学校運営協議会と地域学校協働本部が連携・協働し、関わる大人の幅を広げ、大人の課題解決学習として、「創りたい地域像」を共有しながら教育活動を進めています。

令和4年度は、学園構想第1章である3年間の最終年となることから、児童生徒が自ら企画運営し学校や地域全体が協働するプロジェクトの更なる支援や、大学等を含めた校種間連携の推進を図るとともに、教職員のスキルアップと構想全体の参画意識の向上に向けた取組を強化することで、地域ぐるみで子どもたちの育成をより進めていきます。

3 事業概要

① 【新規】子ども達による「創り手プロジェクト」の支援（1,000千円）

令和3年度に実施された小中学生による物販など児童生徒が地域住民や保護者と連携・協働している課題解決型学習（総合的な学習の時間）の諸活動、地域学校協働活動、企業等とのコラボ企画等の各活動に対し、上限20万円を支援します。

② 【拡充】校種間連携の推進（744千円）

中学生（15名程度）を対象に、夏休みに大正大学でレクチャーを受ける「現地体験学習」を実施するとともに、大正大学生が市内でフィールドワークを行う際に活動を共にする「中学生、思いっ切り探求学習in大正大学」を新たに開催します。

また、小中高の連携による防災タウンウォッチングも引き続き開催します。

③ 【拡充】学校運営協議会を対象としたポートフォリオ研修会の開催（260千円）

これまでの教職員を対象とした理解促進のための研修のほか、学校運営協議会を対象としたポートフォリオ研修会を新たに開催し、専門家から運営方法の改善や学校・地域協働のあり方について学びスキルアップを図ります。

④ 【継続】飛騨市学園構想の運営（3,587千円）

担当課：教育委員会事務局学校教育課（☎0577-73-7494） 予算書：P.123

拡充 ICTを効果的に活用した授業づくり

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
35,599	国庫補助金 990	工事請負費 11,140
	過疎債・学校施設整備基金 23,654	備品購入費 10,894
(前年度予算 40,860)	一般財源 10,955	その他 13,565

2 事業背景・目的

市では国のGIGAスクール構想に呼応し、1人1台のタブレットPCの配備と高速大容量ネットワークの整備を進めてきました。各学校の授業や行事では、タブレットPCや電子黒板等のICT機器の活用が、児童生徒の情報を収集・発信する能力を高めるだけでなく、一人ひとりに合わせて個別最適化された学習を進めるとともに仲間と活発に意見交流をする主体的・対話的な学びを進めることに繋がりました。

さらに、令和3年度より配置したICT支援員は、授業におけるICT機器の積極的な活用や環境整備への指導・支援に多大な力を発揮しました。これにより各校のニーズも高度になり、支援員の訪問要請が増加しました。

そこで、令和4年度は、引き続きICT環境の整備を進めるとともに、ICT支援員を1名増員し、各校週1回の訪問を可能にすることで、児童生徒や教職員の授業や行事におけるICT機器のより効果的な活用を推進し、課題解決能力や情報活用能力を備えた飛騨市ならではの人づくりに取り組みます。

3 事業概要

① 【拡充】タブレット端末等ICT機器の整備 (29,551千円)

- 小学校児童用のタブレット端末を増台し、これにより市内全ての児童生徒1人1台端末の環境が整います。あわせて、教科担当教員及び学級担任用のタブレット端末も追加配備し、ICT機器を利用した効果的な授業づくりを進めます。
- 小学校2年生の普通教室に電子黒板・授業用PCを整備し、デジタル教材(教科書)やタブレット端末とあわせて活用できる環境を整備します。

② 【拡充】ICT支援員の増員 (6,048千円)

ICT支援員を1名増員し、全ての小中学校において週1回程度訪問することで授業内容の改善を図り、児童生徒の課題解決能力や情報活用能力を育みます。

拡充 学習環境・体験活動の充実と指導力の向上

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
6,040	ふるさと納税 一般財源	5,390 委託料 650 謝礼 376 その他
(前年度予算 1,427)		5,390 274

2 事業背景・目的

社会の急速な変化の中、未来の創り手となる児童生徒に求められる資質・能力は「情報活用能力」「グローバル化に対応する力（外国語によるコミュニケーション能力、日本の伝統や文化に対する深い理解など）」等が重要視されています。

市では、こうした資質・能力の育成を目的として、子どもたちの学習環境や体験活動の充実、教職員の指導力向上を図ってきました。

令和4年度もこうした取組を推進し、未来の創り手となる児童生徒の育成に努めます。

3 事業概要

① 【拡充】教育相談室「グリーンルーム」の環境整備（ゼロ予算）

児童生徒と保護者が安心して相談・学習できるよう、千代の松原公民館内で実施している教育相談室「グリーンルーム」を神岡町公民館にも設置します。

② 【新規】民間派遣によるALTの増員（5,390千円）

現在のJETプログラムからのALT3名に加え、民間派遣によるALTを1名増員し、児童生徒と普段から触れ合う機会を増やすことで、自然と英語によるコミュニケーションを取ることができる環境を整えます。

③ 【拡充】児童生徒の「体験」活動の充実（200千円）

元理科教員を講師に招き、自然を大切にする人の思いや心情を学ぶ自然体験学習を実施します。また、市内勤務ALT等と英会話のみで1日生活するイングリッシュデイキャンプを開催し、コミュニケーション能力や表現力を培います。

④ 【継続】教職員を対象とした研修等の開催（450千円）

ICTを活用した授業づくり（カリキュラムの作成やオンラインと対面を併用したハイブリッド授業の進め方、プログラミング授業等）を推進するため、専門の講師を招き実際の授業を活用するなど教職員を対象とした研修を行います。

拡充 地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
9,086	県補助金	1,021	補助金	3,000
	ふるさと納税 (特定目的)	5,000	備品購入費	2,000
(前年度予算 9,757)	一般財源	3,065	その他	4,086

2 事業背景・目的

市内の中学生が、自分の選択した部活動を「仲間とともに」「これからも続けたい」という願いで、思い切り打ち込むことのできる環境・活動づくりに向けて、市では、令和2年度より「部活動コア会議」を開催し、部活動が抱える課題の対策を推進してきました。そうした中、文部科学省から「地域部活動化」により部活動における教師の負担軽減に加え、指導等に意欲を有する地域人材の協力を得て、生徒にとって望ましい部活動の実現を図る部活動改革の考え方が示されました。

令和4年度は、現在、一部種目で行われている合同部活動や拠点校活動の支援と「指導者バンク」の設立を進めるとともに、文部科学省が示す「地域部活動化」について、一部のスポーツ・文化系部活の先行実施を行い、令和5年度以降、段階的に種目数を増やしながら、令和8年度には休日・平日の地域部活動化の完全実施を目指します。

3 事業概要

① 【新規】地域部活動化の先行実施（ゼロ予算）

運動系2部、文化系1部の部活動について、地域で活動されている団体との連携により土日の地域部活動化を先行実施するとともに、課題の検証や種目数拡大に向けた関係者による推進会議を開催します。

② 【新規】合同部活動のための学校間シャトルバスの運行（1,331千円）

現在、部活動の一部種目で実施している神岡中、古川中の合同部活動について、シャトルバスの運行により交通手段を確保し、合同部活動の送迎負担の軽減を図ります。

③ 【新規】部活動指導者バンクの設立と研修会の開催（ゼロ予算）

部活動指導者を登録する市独自の人材バンクを開設するとともに、県から専門家を招聘し、部活動指導者の研修会を年2回開催します。

④ 【継続】部活動指導員等の配置（2,755千円）

⑤ 【継続】部活動充実（大会遠征等・吹奏楽部楽器購入）の支援（5,000千円）

担当課：教育委員会事務局学校教育課（☎0577-73-7494） 予算書：P.122

新規 スマホお助け隊によるシニアスマホ教室の開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,000	一般財源	委託料
	2,000	2,000

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

インターネットの普及に伴い、スマートフォンやタブレットといったデジタルデバイスを活用した買い物や遠方とのビデオ通話等に加え、情報媒体としてSNSの利用が当たり前の社会になっており、市においても電子地域通貨を活用したキャンペーンやインターネットによる新型コロナワクチン接種予約などデジタル技術の活用を推進してきました。

その結果、ワクチン接種予約について70歳代以上の方の多くが直接電話等により予約され、60歳代以下の方はほぼインターネットにより予約されるなど、年代によってデジタルデバイスを活用できる方と出来ない方の格差「デジタルデバイド」が大きいことがわかりました。

このことから、市ではこれまでの紙などによるアナログ手法は継続しつつ、高齢者等が市からの防災情報の入手や電子通貨等の活用が出来るよう、スマートフォンを活用して各地域における指導者的な立場となる人材の育成を図るとともに、各地域においてスマートフォン教室を開催し、市民みんながスマホを使える街となるよう取組を推進します。

3 事業概要

① 市民指導員「スマホお助け隊」の養成

市民の中から指導者的な立場となる「スマホお助け隊」を10名程度募集し、インストラクターによる指導者講習会を開催します。

② 「スマホお助け隊」によるスマホ教室開催

養成したスマホお助け隊を中心に各町公民館等において少人数単位のスマホ教室を各3回程度開催します。

- 講習内容 (1) スマートフォンの基本
(2) メール・LINE等の活用
(3) 防災情報等の取得
(4) 電子通貨の活用

●講習料 無料

担当課：教育委員会生涯学習課（☎0577-73-7495） 予算書：P.131

拡充 飛驒市民カレッジによる生涯学習の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
10,957	受講料	957	委託料	8,257
	ふるさと納税	10,000	謝礼	1,062
(前年度予算 8,776)			その他	1,638

2 事業背景・目的

幅広い関心を持って、楽しみながら学び続ける風土「学びにあふれた飛驒市」を作るため、市ではこれまでの生涯学習の取組に本物の大学を模した遊び心の要素を加えた「飛驒市民カレッジ」を令和3年度に開校し、年間を通じて地元の研究者を講師とした宇宙講座などの専門家を招いたアカデミックな講座を計9回開催するなど、これまで市内では経験出来なかった著名人や専門家等の話を直接聞くことができる機会の提供に努めてきました。

令和4年度は、これまで実施している公民館講座や自主講座も含めた各種講座を飛驒市民カレッジの一つと位置付け、各種講座を一覧にまとめたパンフレットを作成するとともに、高齢者向けに行っていた様々な講座等も飛驒市民カレッジの一つとして位置付けるなどにより、市の生涯学習事業全体を飛驒市民カレッジの名の下に統一感と一体感を持たせ、取組を推進していきます。

3 事業概要

① 【拡充】飛驒市民カレッジ シニア学部の創設 (327千円)

これまでの高齢者学級を引き継ぎ、開催箇所を各町に拡大して講座を開催します。

(対象者) 60歳以上の方

(講座内容) 特殊詐欺防止や生活習慣病予防など生活に身近なテーマ

② 【継続】飛驒市民カレッジの企画運営 (7,754千円)

カレッジの柱となる著名人講座を年1回開催するとともに、市内全域をキャンパスと見立て、各地域の公民館を中心にアカデミックな講座を年8回開催します。また、市民が自分の興味がある講座をわかりやすく探せるよう、公民館講座等を含めた各種講座を一覧にまとめたパンフレットを作成します。

③ 【継続】公民館講座・自主講座の開催 (2,876千円)

郷土の文化等を掘り起こし、市民へ伝えることを目的とした公民館講座や市民自ら講師となり実施する自主講座を飛驒市民カレッジの仕組みの中で一体的に実施します。

担当課：教育委員会生涯学習課 (☎0577-73-7495) 予算書：P.131

拡充 集落有集会施設の整備等の支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
5,665	一般財源	補助金

(前年度予算 45,233)

2 事業背景・目的

自治会などが所有する公民館等集会施設において、過疎高齢化が進む中、築40年以上経過した施設の維持管理が困難となり、将来の負担軽減に向けて施設の解体を検討される集落が出てきましたが、少人数の集落では一軒当りの負担額が大きく解体への合意が図れないといった課題があります。

市では地域のこうした不安を取り除くため、これまでの集落有集会施設の整備にかかる補助制度について、新たに解体に対するメニューを追加するとともに、こうした集落有集会施設は地域の文化である例祭等の用具保管場所や防災備蓄倉庫を兼ねることから、既存施設の解体後の必要最小限の倉庫機能の維持を支援するため、倉庫等の整備もあわせて支援します。

3 事業概要

① 【新規】集落有集会施設に付属する倉庫の整備支援 (1,060千円)

集落有集会施設に付属する倉庫等の整備について、新たに支援制度を創設します。

- (1) 集会施設に付属して倉庫建物を新築・改修する場合
補助率：1/3 (上限200万円)
- (2) 集会施設に付随してコンテナハウス等を購入設置する場合
補助率：1/3 (上限15万円)

② 【拡充】集落有集会施設の整備事業補助金のメニュー追加 (4,605千円)

集落有集会施設の整備にかかる補助制度について、新たに集会施設の解体に対する支援メニューを追加します。

- (1) 新築・増築 1/3 (上限3,000万円)
- (2) 改修 1/2～1/3 (上限200万円)
- (3) 備品購入 1/2 (上限15万円)
- (4) 駐車場整備 1/3 (上限200～750万円)
- (5) 解体 1/2 (上限額150万円) 【新規】

担当課：教育委員会生涯学習課 (☎0577-73-7495) 予算書：P.134

【拡充】 飛騨市美術館の大規模修繕

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
159,000	合併特例債 79,000 文化・交流振興基金 80,000	工事請負費 159,000
(前年度予算 9,700)		

2 事業背景・目的

飛騨市美術館は、平成4年度に整備された飛騨の山樵・木工用具の収蔵展示施設「飛騨の山樵館」の一部を改修し、平成18年度より新たにオープンした施設です。美術品の展示専用に設計された建物ではないことから使いづらさがある中でも、地域唯一の公立美術館としてこれまで個性ある企画運営に取り組んできました。

しかし、美術品を展示・保管する施設本来の目的に対して元々の空調設備の能力が十分ではなかった上、経年劣化が著しく進行してきたことから、運営に様々な支障をきたし始めています。このため、令和3年度に空調設備の全面更新を主体とした大規模修繕の実施設計を行いました。

令和4年度は、設計に基づいた美術館の大規模修繕を実施し、美術品の展示・保管環境の改善を図ります。

3 事業概要

8月まで美術館を通常どおり運営し、9月から空調設備の全面的な更新を中心とした大規模修繕を実施し、令和5年4月のリニューアルオープンを目指します。

- 玄関アプローチのバリアフリー対応
- 空調設備の全更新
- 受付窓口の館内設置
- トイレのユニバーサル化
- 展示室のピクチャーレールの更新
- 収蔵庫の防湿対策
- 研修室の内装全面改修による市民ギャラリーの新設
- 害虫侵入防止のための中庭改修



【拡充】 飛騨市美術館と連動したアウトリーチ活動の推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
900	参加者負担金	55	謝礼	380
	一般財源	845	費用弁償	375
(前年度予算 400)			その他	145

2 事業背景・目的

市では、美術への造詣を深め創造する喜びや鑑賞する楽しさを知ることにより感性豊かな人材を育てるため、飛騨市美術館の事業の一つとして企画展に付随したトークイベントやワークショップ、美術教室など様々な教育普及活動を実施してきました。

令和4年度はこうした取組に加え、美術館の枠をこえて小中学校等へ出向き、美術館の収蔵品を利用した鑑賞授業を行う「アウトリーチ活動」を実施することで、子どもたちに美術作品の味わい方を伝えるとともに、豊かな感受性や、多様な見方・考え方を認め合う心を育みます。

あわせて、先行実施する中学校部活動の地域部活動化の受け皿として、教員免許を有し、長年学校現場で指導の実績を持つ上屋美千弘副館長を中心に市内中学校美術部との連携を図り、地域文化の担い手と後継者の育成を図ります。

3 事業概要

① 【新規】小中学校における出張美術鑑賞授業

副館長を中心に美術館担当職員・スタッフが、美術館収蔵作品を現地に運び授業を実施します。

② 【新規】茂住菁邨氏によるワークショップ等（場所：飛騨市美術館等）

学校連携：小中8回・特支2回・高2回、公募3回、講演会1回予定

③ 【新規】子ども達を対象としたカメラ教室、マンガ教室（場所：古川郷土民芸会館）

夏休み時期に各2回実施予定

④ 【新規】日本画教室、彫刻・立体造形教室（場所：古川郷土民芸会館）

日本画教室4回、彫刻・立体造形教室4日間連続で実施予定

⑤ 【継続】親子ワークショップ《親子でつくろう！》

岐阜県美術館出張講座、岐阜県現代陶芸美術館出張講座、自主講座2回

⑥ 【継続】子ども・鑑賞ワークショップ《副館長と絵を見て話そう！》

⑦ 【継続】飛騨市美術館美術教室《描こう！つくろう！私の作品！》

担当課：教育委員会事務局文化振興課（☎0577-73-7496） 予算書：P.135

新規 神岡城の展示装飾等のリニューアル

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
10,000	ふるさと納税	10,000	工事請負費	8,105
			委託料	1,545
(前年度予算 0)			その他	350

2 事業背景・目的

市は、県内で初めて国の史跡・名勝の二重指定を受けた江馬氏城館跡について、これまで保存と活用の両面から様々な事業を実施してきました。また、平成29年度から傘松城跡の史跡追加指定を目指した取組も進めており、令和4年度には意見具申書を文化庁へ提出する予定です。

一方で、江馬氏の歴史やその背景となる神岡の歴史を伝えるコンテンツの不足や高原郷土館の活用と連携が課題となっていることから、令和4年度に高原郷土館を構成する施設の一つである神岡城の展示装飾をリニューアルし、江馬氏城館跡の価値と傘松城跡の評価を伝える展示とすることで、令和5年度の史跡追加指定に向けた機運の醸成と入館者数の増を図ります。

3 事業概要

① 神岡城の展示装飾等のリニューアル (1,895円)

調査研究成果をまとめたパネル展示を中心とし、ライティングや施設内のサイン等も見直した館内のリニューアルを行います。

- 既存展示物を撤去し、江馬氏城館跡の価値を解説するパネルの展示
- 考古資料展示を見直し、神岡町史や詳細分布調査の成果を追加
- 3階展望台には、周辺の眺望や山城、東町城下町の構造など歴史の変遷をとらえた解説を壁面パネルにより設置
- 分かりやすい解説動画の作成と携帯電話等で視聴できるようリンクを表示
- インバウンドに対応するため、動画やパネルに英字の翻訳を表示
- パンフレットのリニューアル

② 神岡城の身だしなみ整備 (8,105千円)

展示装飾のリニューアルに合わせ、屋根や展望台周辺の金網の修繕等により神岡城の身だしなみを整えます。

担当課：教育委員会事務局文化振興課 (☎0577-73-7496) 予算書：P.135

拡充 江馬氏城館跡の保存活用の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,347	国庫支出金	82	委託料	1,844
	ふるさと納税	2,265	印刷製本費	412
(前年度予算 9,598)			その他	91

2 事業背景・目的

市では、江馬氏城館跡の保存活用を図るため、これまで江馬氏に関連する「山城セミナー」の開催や、飛騨市観光協会神岡支部を中心とした活用検討委員会による活用に向けた手法や課題を模索するためのプレイベント等の実施など、地域の観光振興や交流人口創出の拠点として位置付けるよう各種事業を推進してきました。また、県史跡の山城「傘松城跡」については、江馬氏城館跡群の1つとして国史跡の追加指定を目指しており、令和元年度までの各種調査、令和2年度には倒木の処理と発掘調査、令和3年度には現地看板を設置・PR動画を作成、遺構保存地区の土地取得を行ってきました。

令和4年度はこれまでの活用の取組を更に推進するとともに、令和5年度の史跡追加指定に向けた意見具申書を文化庁へ提出し、文化財の本質的価値が共有できるような調査研究、その内容の発信に努めます。

3 事業概要

① 【拡充】傘松城跡の史跡追加申請（ゼロ予算）

傘松城跡の国史跡追加指定に向け文化庁へ意見具申を行い、令和5年度の追加指定を目指します。

② 【継続】江馬氏城館跡の活用（1,824千円）

江馬氏館跡公園活用イベントや山城マップの増刷を継続して実施するとともに、今後は県内でこうした資源の調査・活用を進めている岐阜市・山県市・郡上市・高山市や福井県などと連携し、歴史講座の共同開催に向けた検討等を行います。

③ 【継続】江馬氏城館跡の保全（523千円）

奈良文化財研究所の指導を受けながら、庭園景石の保存・管理を行っていくとともに、江馬氏城館跡全体の報告書作成に向けた縄張り図（寺林城・石神城・土城）作成・トレース業務を行います。

拡充 姉小路氏関連山城群の調査・活用の推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】										
6,723	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">国庫支出金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2,916</td> </tr> <tr> <td>ふるさと納税</td> <td style="text-align: right;">3,807</td> </tr> </table>	国庫支出金	2,916	ふるさと納税	3,807	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">委託料</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">6,046</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td style="text-align: right;">300</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">377</td> </tr> </table>	委託料	6,046	印刷製本費	300	その他	377
国庫支出金	2,916											
ふるさと納税	3,807											
委託料	6,046											
印刷製本費	300											
その他	377											
（前年度予算 1,925）												

2 事業背景・目的

古川町各地に点在する飛騨国司・姉小路氏関連の山城群は、中世の飛騨国の中心であった古川盆地の覇権を巡って繰り広げられた飛騨の歴史を物語る貴重な遺産であり、国史跡レベルの価値があると高く評価されていることから、市ではこれらの国史跡指定を目指して平成30年度から総合調査を実施するとともに、姉小路氏関連の山城群とその調査を行う意義を郷土の誇りとして位置づけ、地域づくりの核となるよう山城イベントの開催、山城イベント説明看板、山城復元イラスト、山城（発掘）PRビデオの製作を実施してきました。

令和4年度は、これまでの調査の集大成となる国史跡指定に向けた文化庁への意見具申を行うとともに、引き続き山城群の保全・活用の取組を推進します。

3 事業概要

① 【拡充】史跡指定に向けた取組（5,189千円）

山城群の国史跡指定に向けた調査を継続し、史跡指定に向け文化庁への意見具申を行い、令和5年度の指定を目指します。また、報告書の刊行と、それに合わせた学芸員による市民報告会を開催し遺跡の価値を広く市民に伝えます。

② 【拡充】城館跡の活用（663千円）

山城復元イラストの額装及び山城マップの作成を行い展示等に活用します。あわせて、黒内区のご協力により小鷹利城の登山道整備が完了したことから、古川ふれあい広場から小鷹利城跡への道路案内サインの整備を行います。

③ 【継続】城館跡の保全（871千円）

- ・末高区との協力による野口城跡登山道の整備
- ・各山城から出土した遺物の保存処理

新規 市指定文化財「旧中村家」の修復

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,856	ふるさと納税 (特定目的) 2,856	委託料 2,728
		費用弁償 68
(前年度予算 0)		謝礼 60

2 事業背景・目的

「旧中村家」は、神通川水系の合掌造り民家として当時の宮川村に唯一残っていた貴重な建物であったことから、1991年に飛騨みやがわ考古民俗館敷地内に移築し、1992年に市指定文化財として保存され、近代の飛騨の暮らしを伝える施設文化遺産としてこれまで保全・活用を図ってきました。

中でも多くの費用と人工が必要である茅葺き屋根の維持には、これまで小修繕により対応してきましたが、経年劣化による損傷の進行が顕著になってきたことから、修復財源の確保を目的として令和2年度からふるさと納税により寄付を募ったところ、目標額4,000万円に対し令和3年12月までに3,200万円を超えるご支援を多くの皆様からいただきました。

このことから、令和4年度から今後の修復整備や活用について地域の方々や専門家との検討を進め、旧中村家の保全と活用に地域一体で取り組みます。

3 事業概要

① 修復に向けた地域と専門家等による検討会の開催 (308千円)

旧中村家の修復に向け、地域の大工や茅葺き職人、文化財保護審議会、地域の方々にも多く関わっていただけるよう、旧中村家においてカフェスタイルによる検討会「囲炉裏カフェ」を年3回開催します。

② 調査設計委託の実施 (2,548千円)

調査設計を委託し、囲炉裏カフェによる検討結果を反映させつつ今後の修復方針やスケジュールを決定します。



担当課：教育委員会事務局文化振興課 (☎0577-73-7496) 予算書：P.135

新規 市天然記念物「福全寺跡大イチョウ」の保護柵設置

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,800	ふるさと納税 2,800	工事請負費 2,800

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

市の天然記念物である福全寺跡の大イチョウは、古川の街のシンボルとも言える大切なイチョウであり、これまでも根本保護のために柵を設置するなど大切に守られてきましたが、設置してある柵が経年劣化し、特にまつり広場側は、根元の金属部分が腐食するなど修繕が必要となっています。

これまでも危険個所については応急修繕を行ってきましたが、観光客など多くの人の目に触れる場所であり、市民からも修繕や景観に対する要望が寄せられてきたことから、令和4年度に抜本的な柵改修を行い、大イチョウの保護と景観の保全を図ります。

3 事業概要

根元の土が流出しないよう土留めを行うとともに、柵を設置する際に掘削を柱部分だけにするなど、その基礎がイチョウの根を傷めないよう配慮しつつ保護柵を設置します。

また、柵の材料は飛騨市産広葉樹を活用し、工程の一部を広葉樹の特徴と活用の知恵を市民に伝える「広葉樹のまちづくりセミナー」として開催することにより、大イチョウそのものの保全意識の醸成を図ります。



担当課：教育委員会事務局文化振興課（☎0577-73-7496） 予算書：P. 132

新規 ジュニアスポーツ応援プロジェクトの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
6,500	ふるさと納税 (特定目的) 5,600 一般財源 900	交付金 5,600 委託料 900
(前年度予算 0)		

2 事業背景・目的

市内におけるスポーツ活動は、スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブをはじめとする「社会体育」と、小学校から高校までの枠組みの中で行われる「学校体育」があり、市では多くの市民にスポーツになれ親しんでいただける環境整備を推進しています。

令和4年度は、特にそうした環境の中で日々頑張っている子ども達にスポットを当て、普段の活動の様子などを市民に広く周知します。また、中日ドラゴンズとのコラボによるふるさと納税を活用した子ども達のスポーツ活動に対する支援制度を創設し、地域ぐるみで子ども達のスポーツ支援を推進します。

3 事業概要

① ジュニアスポーツ活動の支援 (5,600千円)

ふるさと納税を原資としたジュニアスポーツ活動を支援する補助制度を創設します。

- 対象者 市内のスポーツ少年団・中学校部活動 (運動部)
- 対象経費 スポーツ用品や器具、遠征等の活動に要する経費 ほか
- 補助額 ① 基礎補助枠 各団体の人数×5,000円
② 特別補助枠 各団体の人数×2,000円
(特別補助枠は前年のふるさと納税額により単価を決定)

② 「スポーツひだ (仮称)」の発行 (900千円)

子ども達がスポーツで汗を流す姿や努力している姿を市民に広く伝える事でスポーツ熱・機運醸成を図ることを目的に、情報誌「スポーツひだ (仮称)」を年6回発刊します。



担当課：教育委員会事務局スポーツ振興課 (☎0577-62-8030) 予算書：P. 138

新規 全国中学生クロスカンントリー大会in流葉の開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
3,282	参加料 1,500	委託料 2,000
	一般財源 1,782	報償費 524
(前年度予算 0)		その他 758

2 事業背景・目的

野原や森林と言った自然の中を走るクロスカンントリー走は、平坦な整地を走るのに比べ、心肺や筋力に負担がかかることや、不整地の着地にバランス維持が求められることから体幹の安定に効果があるなど、運動能力向上に有効なトレーニング方法として注目されています。

このことから、市では、子どもの成長過程において特に「持久力向上」が期待される中学生に重点を置き、未舗装路を走る事の大切さや自然の中を走る楽しさを体感してもらうと同時に、全国の中学生と競い合い、交流や情報交換の場が生まれることで、1ランク上の目標設定を行ってもらうために、市内外を問わず全国から中学生を募集してクロスカンントリー大会を開催します。また、オフシーズンとなるひだ流葉スキー場周辺を会場とする事で誘客等による地元地域の活性化を図ります。

3 事業概要

飛騨流葉数河カンントリーウオーク運営委員会やnewflow（スキー場等指定管理者）の協力により、ひだ流葉スキー場周辺に設営されているウオーキングコースをコースとして設定し、大会運営を流葉地区におけるスポーツ大会開催実績がある市外の専門業者に委託します。

- 開催日：令和4年11月6日（日）予定
- 場 所：ひだ流葉スキー場周辺
- コース：1周約3km
- 参加者：中学生5人1組のチームを約100チーム募集予定



担当課：教育委員会事務局スポーツ振興課（☎0577-62-8030） 予算書：P.137

新規 子ども達のスケートボードエリアの整備

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
1,000	ふるさと納税 (特定目的) 1,000	工事請負費 1,000
(前年度予算 0)		

2 事業背景・目的

令和3年に開催された東京オリンピックでは、スケートボードが公式競技として採用され、日本人選手によるメダル獲得などの活躍も相まって、全国的なスケートボード人気の高まりが続いています。市内においても子ども達を中心にスケートボード愛好者が増えてきている一方、市内には安全に滑走できる場所が少ないのが現状です。

こうした現状を踏まえ、令和3年度に市内の小中高生を対象にスケートボードエリアの設置に関するアンケート調査を実施した結果、設置希望者が全体の4割を超えるなど設置を希望する声が非常に高いことがわかりました。

一方で、こうしたエリアの設置には、騒音トラブルなどの問題が全国的にも叫ばれていることから、令和4年度は騒音などの課題整理や滑走可能な場所の選定等の実証実験を行い、子ども達が安心安全にスケートボードを行える環境を整えます。

3 事業概要

実証実験では、事前に市内4箇所のエリアを選定し、全国的に問題となっている騒音トラブルの回避及び路面の滑走性等を検証するため、近隣住民及び市内スケートボード愛好家にご協力を頂きながら効果検証を行い、スケートボードエリアの整備を検討します。

なお、実証実験の実施にあたっては、ガードパイプや車止め等を設置するなど安全面に考慮した対策を講じます。

【実証実験実施エリア】

- 神岡地区 : 市営夕陽ヶ丘駐車場
旧東小学校校舎敷地
- 古川地区 : 古川西小学校体育館敷地
宮川河川敷



担当課：教育委員会事務局スポーツ振興課 (☎0577-62-8030) 予算書：P.138

拡充 オリンピアン・トップアスリートとの交流

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,270	ふるさと納税 (特定目的) 2,270	補助金 1,320 負担金 950
(前年度予算 800)		

2 事業背景・目的

「子どものスポーツ離れ・体力低下・部活動改革」など、子どものスポーツを取り巻く環境は様々な課題を抱え変革期を迎えています。一方で、東京オリンピック・パラリンピックにおける日本人選手の活躍や中日ドラゴンズの根尾選手の存在が追い風となり、スポーツの機運はコロナ禍にあっても高くなっています。

こうしたことから、子ども達がスポーツの魅力を感じ「夢と希望」を抱いてもらえるよう、著名なスポーツ選手とふれあい学ぶ機会を設けます。

また、神経系の発達時期「ゴールデンエイジ」世代における適切、的確な指導・強化につなげるため、指導者、保護者の意識改革を図ることで、普及・育成・強化の一連の流れを醸成し将来の飛騨市における持続可能なスポーツ環境を整えます。

3 事業概要

① 【新規】宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボールの開催 (950千円)

宝くじの社会貢献広報事業の活用により元プロ野球選手約20名を招へいし、スポーツ少年団や中学生を対象とした野球教室を開催します。(総事業費3,250千円)

- 時期：令和4年10月
- 場所：サン・スポーツランドふるかわ

② 【新規】社会人野球チームによる野球教室の開催 (420千円)

県内を代表する社会人野球チーム「西濃運輸」の協力により、小中高校生を対象とした野球教室を開催します。

- 時期：令和4年8月
- 場所：サン・スポーツランドふるかわ

③ 【継続】オリンピック・トップアスリートとの交流 (900千円)

市内の小中学生や保護者、指導者を対象として、オリンピック出場経験者やトップアスリート等によるスポーツ教室やふれあい交流会、講演会等を開催します。

担当課：教育委員会事務局スポーツ振興課 (☎0577-62-8030) 予算書：P.138

拡充 スポーツに特化した学童保育の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,800	参加者負担金 1,200 ふるさと納税 (特定目的) 1,600	委託料 2,800
(前年度予算 1,900)		

2 事業背景・目的

子どものスポーツ離れや体力低下が大きな社会問題となっている中、総合型地域スポーツクラブ「飛驒シューレ」では、令和2年度スポーツ庁モデル事業の採択を受け、神岡町を拠点としてスポーツに特化した学童保育「インクルーシブ・スポーツ学童」を開設し、令和3年度からは市の委託事業として、子ども達が気軽にスポーツに楽しめる機会の創出に取り組んできました。

令和4年度は更に一人でも多くの子ども達がスポーツを身近に感じ、スポーツと学習が生活の一部として取り入れることができるよう、実施地域の拡大を図り、スポーツ実施率の向上に努めます。

3 事業概要

総合型地域スポーツクラブ「飛驒シューレ」への業務委託により、神岡町地区の保育園年長児から小学生低学年までを対象に、桜ヶ丘体育館を拠点とした週1～2回の学童保育を継続して実施するほか、令和4年度は新たに古川町地区において、総合型地域スポーツクラブ「ひだチャレンジクラブ」への委託事業により、古川トレーニングセンターを拠点に月1回程度、小学生を対象とした学童保育の実証実験を行います。

なお、実施にあたっては、地元高校、大学、地域内外の産業界などの様々な主体と分野を超えて連携し、地域ぐるみで子ども達のスポーツ環境の充実を図ります。

(サービスの流れ)

- ・ 小学校から各拠点の体育館へバス移動 (保育園児は保護者による送迎)
- ・ 捕食及び学習 (宿題や自主学習)、スポーツ活動 (各種スポーツの体験)
- ・ 終了後、保護者またはスポ少や他のスポーツ活動への引き渡し

拡充 クアオルト健康ウォーキングの推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
3,553	ふるさと納税	3,553
		委託料 3,199
		原材料費 300
(前年度予算 2,667)		旅費 54

2 事業背景・目的

健康意識の高まりから散歩・ウォーキング人口は広く全国に広まり、今ではライフスタイルの一部としても定着しつつあります。

市では、豊かな森林と冷涼な気候という恵まれた地理条件を活かしたクアオルト健康ウォーキング*の普及を目指し、令和元年度に飛騨市健康ウォーキングガイド協会を設立。以降、クアの道認定コースの増設や指導員の養成、ウォーキングイベントの開催等に取り組んできました。

令和4年度は、県内のクアオルト実施市（岐阜市・関市）との連携によるイベントの実施や新たなコースを設定するほか、実践指導員を増員し、更なるウォーキングの普及と市民の健康づくりに取り組みます。

*気候性地形療法（心拍数や体表面温度を適切に管理しながら無理なく歩くことで健康づくりを行う）

3 事業概要

① 【拡充】健康ウォーキングの推進（2,054千円）

定期的なウォーキング体験会のほか、県内のクアオルト実施市（岐阜市・関市）への日帰りウォーキングツアーの開催、県内の旅行会社に対し健康の三要素「運動・食・休養」の中にクアオルトを取り入れた観光パックの商品化を促進し、健康ウォーキングの推進を図ります。

② 【拡充】ウォーキングコースの整備（300千円）

協会独自認定の新たなコース「小島城コース（仮）」「藤波八丁コース（仮）」の設定を行うほか、令和3年度に朝霧の森コースに設置した「木のベッド」を令和4年度は森林公園コースにも設置します。



③ 【継続】実践指導員の養成とフォローアップ（1,199千円）

市内3つの「クアの道」認定コースをガイドできる実践指導員の養成と既存ガイドのフォローアップ講習を行います。

担当課：教育委員会事務局スポーツ振興課（☎0577-62-8030） 予算書：P.137

拡充 飛驒駅伝競走大会の開催支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
580	一般財源	580
		負担金 300
		印刷製本費 180
		その他 100
(前年度予算 620)		

2 事業背景・目的

昭和39年に始まった飛驒駅伝競走大会は、昭和、平成、令和へと歴史をつなぐ飛驒地域で最も伝統ある駅伝です。平成29年の第54回大会より会場を下呂市から飛驒市に移され、更に令和3年の第58回大会では従来の「森林公園周辺コース」からハートピア古川を発着点とした「市街地コース」に変更されたことにより、これまでで最も多い48チームが参加する大規模な大会へと変わってきました。

令和4年度は更に規模の拡大を図るため、沿道の皆さんによる選手への熱い応援や市を挙げた「おもてなし」で駅伝大会を盛り上げ、併せて街の活性化とスポーツ振興を図ります。

3 事業概要

① 【新規】 応援用小旗による沿道応援の実施 (180千円)

コースマップを記載した小旗約1,100本を作製し、コース沿線の世帯、参加チーム、大会関係者などに配布し、当日の沿道応援により大会を盛り上げます。

② 【新規】 音楽演奏による士気高揚 (70千円)

市民有志による楽団や中学校吹奏楽部の皆さんによる演奏で選手の気勢を高めます。

③ 【継続】 大会負担金 (330千円)

駅伝成績に関係なく、大会を盛り上げたチームに対し「飛驒市長賞」を贈呈するなど、大会運営に係る費用を支援します。



担当課：教育委員会事務局スポーツ振興課 (☎0577-62-8030) 予算書：P.137